

暮らしを支える専門職の協働体制づくり

「みんなでe-こうか」強みを生かした新たなつながりの場

【はじめに】

現在日本は、少子高齢化、地域での支え合う力の低下、非正規雇用者の増加、家族機能の低下といった社会環境の変容による問題を抱えている。それはつまり、このような身近な生活課題への対応、生活困窮・社会的支援、地域社会への働きかけは、専門職が住民とともにネットワークを組み、取り組んでいかなければならない時代に突入したということである。

多職種間の連携が言われて久しいが、時代の潮流の中、専門職の協働体制に何が必要かを2年前からメンバーとして関わる「みんなでe-こうか」の活動を通じて考えてみたい。

【みんなでe-こうかの概要】

甲賀圏域(甲賀市・湖南市)福祉の、保健・医療・教育などに関わる関係職種を中心に設立したサロン。

これまでに、年2回の頻度で、一般市民交えてのイノベーションサロンを5回開催。

運営：4人の事務局を中心に運営委員15人が定期的に集まり企画する。

目的：知と智を合わせて、甲賀をよくしよう

内容：①仲間が寄り集まり、情報交換する場

②認め合い励まし合う場

③新たな取り組みに生かせる場

ルール：誰が来ても welcome。イノベーションサロンへの参加、出入りは自由。

【支援の内容】

表1参照 事務局としての広報、企画支援。

【結果】

イノベーションサロンの参加者は回を重ねるごとに増えてきている。

◎一般参加者の声「隙間の仕事の大切さが知れた」「福祉でも幅が広いんだ」「自分の分野と違う人の話が聞けて良かった」「多職種の人と話すことで、自分の仕事の大切さがわかった」「次回も楽しみ」

イノベーションサロンに登壇したグループから「優しい介護をつなげたい」チームが結成されて、住民への新たな啓発活動が始まった。

【考察】

複雑で錯綜した現代社会において、現場での柔軟で現実的なマネジメントに基づいた情報共有や合意、ネットワークや協働は欠かせない。そして、専門職自身が心身ともに健康でいなくてはならない。しかしながら、福祉の専門業界の中では、職務としての研修はあってもオフサイトでの繋がり場所は少ない。

また、現場は体力的なものだけではなく、人相手であるがゆえに、疲弊している現状もある。この現状を解決するためには、専門家による指導や教育的な介入だけではなく、むしろ参加者同士が対話をして、互いに理解し合い、良い関係を作る場が必要である。そうすることで、共感的なスキルや協働のセンスは磨かれると考える。

みんなでe-こうかイノベーションサロンの開催は、現場で働く専門職は多様であるべきとの結果が生まれただけではない。対象となる人を支援するもの同士が、オフサイトで関わることで、互いをエンパワメントし、化学反応をおこし、質の高いケアにつなげる可能性を生み出せる。

またこのサロンの特徴として、15人からなる運営委員の中で若手が存在している点あげられる。若手の存在により、形式にとらわれない自由な発言や役割を保証し、責任を担いながら、楽しく運営に関わってもらおうという新しい政策開発の方法が出来上がった。

時代は変わってきている。法令根拠や国の事業に右往左往することなく、このような仲間たちの思いを知り、共に「いつもの暮らしに幸せな甲賀」を作っていけないだろうか。そしてその時、専門職である前に「人」として感覚を忘れずにいたいと思う。

開催年月	参加者数	ブース内容 (交流会◎ワールドカフェ形式㊦)	
2017.2 平日夜	25人	㊦	どんなつながりが必要かの意見だし、グループのネーミング
2017.9 休日終日	80人	㊦	①児童養護施設と地域の繋がり ②地域共生社会って何だろう ③成年後見と権利擁護 ④介護・医療、国の骨太指針とは ⑤引きこもりへのアプローチ ⑥特別支援学校の児童の社会参加 ⑦地域の喫茶店が悩み事相談所に ⑧みんなでe-こうかは人との潤滑油
2018.3 平日夜	80人	㊦	①グループホームに暮らす人の居場所づくり ②忍耐強く続ける引きこもり支援 ③放課後デイサービス ④訪問リハビリって何？
2018.1 平日夜	90人	㊦	「地域共生社会の原点を障がい者福祉から考える」フォーラムと交流会
2019.3 平日夜	110人	㊦	①子どもの困窮支援 げんこつタコ焼き ②かんたき(看護小規模多機能居宅)って？ ③当事者が語るがん患者事情 ④優しい介護をつなげ隊